

令和6年人生100年時代づくり・地域創生ソフト事業総括

1. 事業の名称

オンライン医療相談を核としたサービス拠点化事業

2. 事業の目的

度会町の中心部から遠く離れた集落では、通院や買い物などのために町中心部へ30分程度かけて移動しないと日常生活が成り立たない地域があります。町内の高齢化率も36.9%と高く、自ら運転することが困難になる住民が今後さらに増えることが想定される中、集落ごとにオンライン医療相談を中心としたサービスを提供する拠点を整備することで、日常生活における利便性の確保を図りました。

3. 実施方法

日常生活において必要となる販売・医療・にぎわい等の各種サービスを、集落ごとの地域拠点に集めるため、地域事業者と協力して体制整備を行いました。サービスの中心となるオンライン医療相談については、地域外の事業者の協力も必要となるため、コンサルタント会社と委託契約を締結し、サービス導入の検討段階から支援を受けました。

4. 事業内容及び実施状況

オンライン健康相談を核にサービスを提供し、移動スーパー・健康体操・福祉ネイル・カフェ・健康マージャンを一斉に揃えて町内拠点4箇所を実施。総勢80名の住民が参加しました。コンサルタント会社との委託契約により、スムーズな運営が可能でした。また、今後の事業展開に活用できるように事業に対するアンケート調査を実施しました。

5. 事業の効果

タブレット端末を使用したオンライン健康相談を実施することにより、従来の対面診療に加えて、新たな診察方法が取り組まれている現状を住民に広く周知する機会となりました。また、移動困難者に対しても、移動の負担が軽減できる拠点化のメリットを享受することで、生活における不安や悩みの解消に繋がる新たなアプローチとなりました。

6. その他（感想等）

オンライン健康相談は、委託先のコンサルタント会社の登録医師に診察してもらいました。まったく知らない医師だからこそ「主治医には話しにくいことも相談できた」という喜ばれる声があった一方で、「かかりつけ医があるから大丈夫」と相談を断られたり、「耳が遠くなった」「膝が手術後から動かしにくくなった」という多様な質問に医師が的確なアドバイスができていないように感じる場面が見受けられました。自宅から比較的気軽に来れる場所での相談だからこそ、普段感じている些細な不安や悩みを聞くことができ、それが大きな病気の予防や早期発見につながるのではないかと思います。

また、地域によっては通信環境からか、音声が届かないことや、高齢者はオンラインデバイスの操作方法に不安をかかえているという課題も見えました。

そのほかのサービスでは、参加者同士で会話を楽しんでいる姿を見ることができ、地域コミュニティの必要性を改めて感じました。空き家対策をミッションとする地域おこし協力隊による「健康マーじゃん」では、対局中の何気ない会話から空き家バンクへの登録につながる場面もあり、「地域のにぎわい」を通じて地域課題が解決されていく人と人とのつながりの力を実感しました。

事業全体を通じてオンライン健康相談の有効性、地域住民が交流することができる地域拠点の整備が有益だということが実証できました。

《写真》



オンライン健康相談



健康マーじゃん



移動スーパー



福祉ネイル